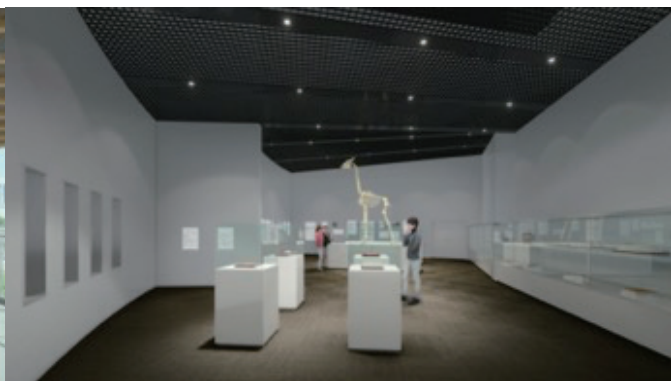


1. 建物

藤井徳夫様（本学卒業生）の
ご寄附により実現

- ・設計：九州大学施設部・(株)徳岡設計
- ・施工：(株)環境施設
- ・構造：鉄筋コンクリート造 平屋建
- ・規模：延床面積 393.24 m²、高さ 10.20m
- ・竣工：2020年10月23日



2019年イメージバス（施設部資料）

2. 立地

講堂と図書館のあいだに
新たな人の流れをつくる場所

人々の集いや表現の場である、椎木講堂。
書籍による知の集積・探究の場である、図書館。
フジイギャラリーは、その中間に位置しています。
両者のあいだに新しい流れをうみだし、本学が目指す総合知を共創し表現できる場となることを目指しています。



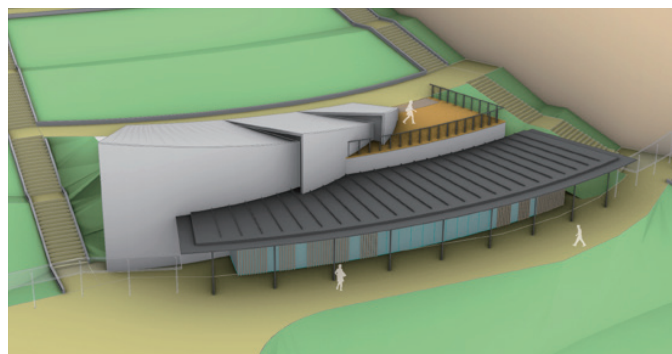
3. 外観

モチーフは「鳥の羽」

「本学学生が大志を持ち、より大きく羽ばたいて欲しい」という、企業創業者でもある寄附者の思いを反映。「鳥の羽」にみたとた九大博物館ロゴの形がデザインに取り入れられています。



九大博物館ロゴ



2019年イメージバス（施設部資料）

4. 対象

誰でも利用可能

主な対象は本学構成員ですが、来訪者や市民のみならずにもご利用いただき、様々な垣根を超えた交流を目指しています。打ち合わせやキャンパスの“第三の居場所”としてはもちろんのこと、実践研究への利用場所、研究を「みえる化」するための共同企画実施など、挑戦的な使い方を想定しています。

・国際標準の研究・教育・福利厚生を担保する
・実践研究可能な挑戦的な場とする

メインターゲット

本学学生・教職員

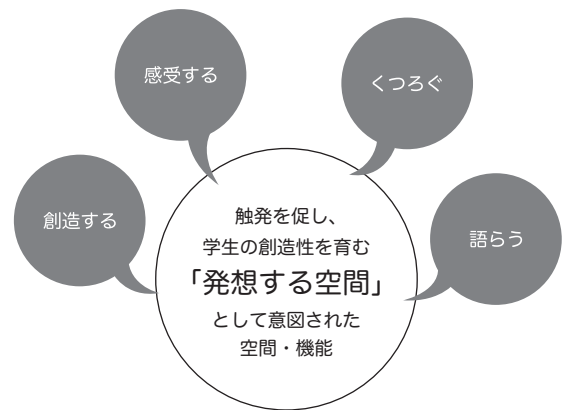
サブターゲット

本学来訪の研究者・
企業・団体
高校生・一般住民
ほか

5. 理念

触発を促し創造性を育む 発想する空間

フジギャラリーは、ただ「展示をする」だけの場所ではなく、みなさんの触発を促し、その創造性を育む「発想する空間」です。試みや実践（行動）を積み重ね、みなさんとともに「場」を共に創り、様々な価値をうみだし、それらを体感・共有しながら次のアウトプットへつなげていくことを支援します。



6. 区分け

2つのゾーンで触発と交流を促す

ギャラリー1 (G1) とギャラリー2 (G2) には、それぞれ異なる特色と機能を持たせています。

G1は、このギャラリーの「あり方」を体現している空間です。外構と同じ塗装壁面が延長しており、また見通しのよい開放的な空間は、屋外や通路と一体化する縁側のような場所です。交流しながら、創造のきっかけをつくったり、触発を共有・発展させたりすることを促します。

G2は、天井を高くすることで、様々な企画展に対応できるようにしています。曲線壁で囲われた閉鎖的な空間を活かし、ここでだけで可能となる表現や体験、試みなどを促します。

